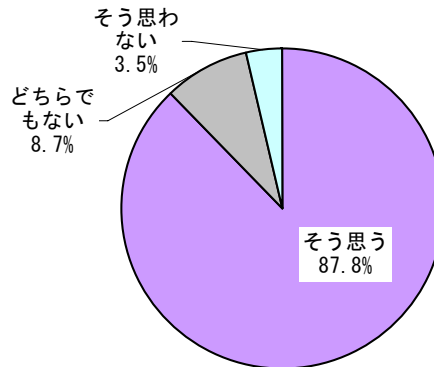


今後の京都都心における「歩いて楽しいまちづくり」の推進について

1. 徒歩と公共交通を中心とした「歩いて楽しいまちづくり」の推進

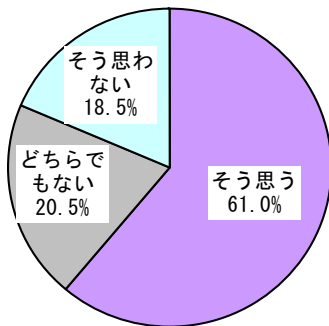
- 徒歩と公共交通を中心とした「歩いて楽しいまちづくり」については、来街者は約9割が賛同する一方で、住民は約6割、事業所は約5割となっている。

<来街者 (N=862) >

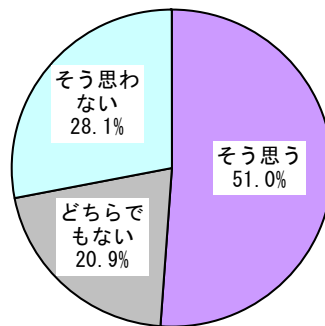


<住民>

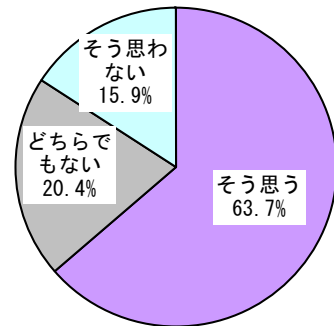
(全体 (N=1,676))



(規制対象内 (N=292))

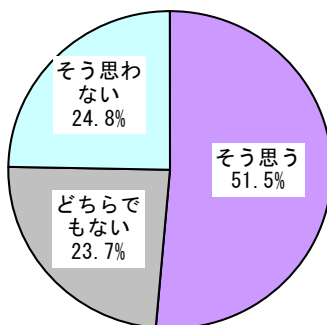


(規制対象外 (N=1,296))

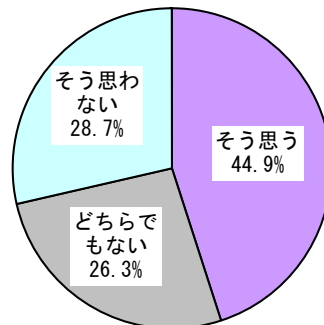


<事業所>

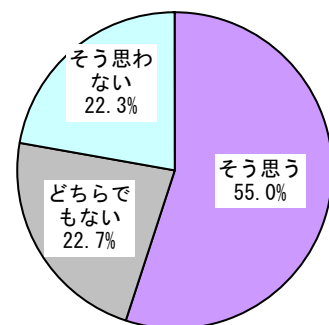
(全体 (N=1,373))



(規制対象内 (N=334))



(規制対象外 (N=882))

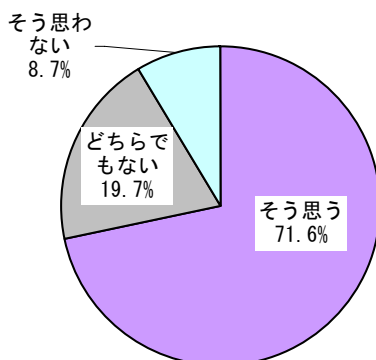


資料：来街者ヒアリング，住民アンケート，事業所アンケート調査 ※無回答を除く

2. 自動車よりも公共交通を優先したまちづくりの推進

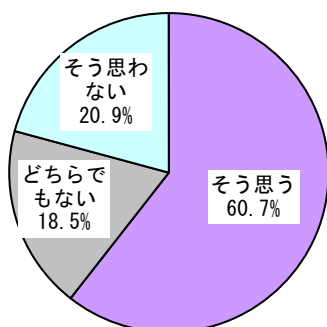
- 「公共交通がもっと便利になるのであれば、多少自動車利用が不便になっても仕方ない」との問いについては、来街者は約7割、住民の約6割が賛同している。
- 事業所における賛同意見は5割以下となっており、約3割は否定的な見解となっている。

<来街者 (N=862) >

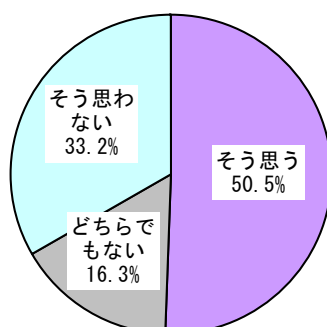


<住民>

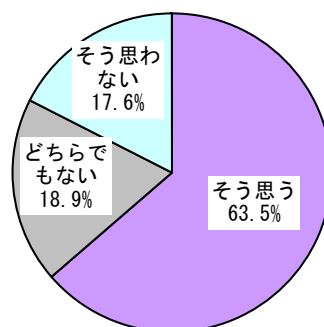
(全体 (N=1,663))



(規制対象内 (N=289))

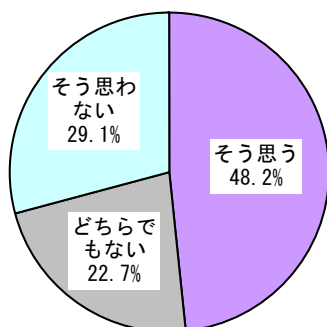


(規制対象外 (N=1,287))

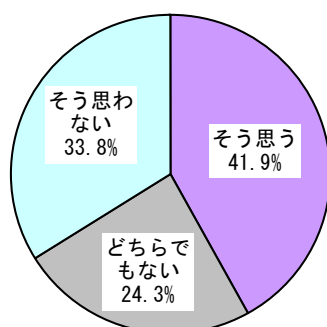


<事業所>

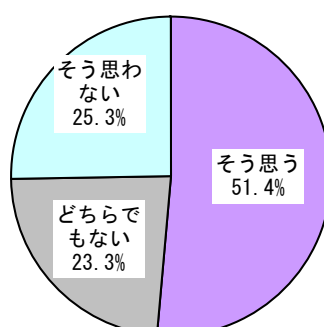
(全体 (N=1,366))



(規制対象内 (N=334))



(規制対象外 (N=876))

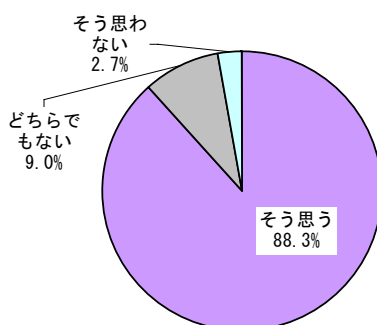


資料：来街者ヒアリング，住民アンケート，事業所アンケート調査 ※無回答を除く

3. 歩いて楽しいまちづくりとあわせた景観づくりの推進

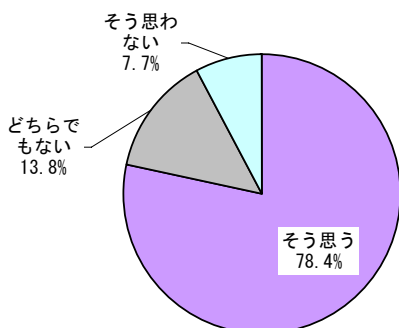
- 徒歩と公共交通を中心とした「歩いて楽しいまちづくり」とあわせて、町家を活かした街並みづくりや、醜い広告の規制など、「美しく魅力あるまちづくり」も一体的に進めるべきとの問いについては、来街者は約9割、住民は約8割、事業所は約7割が賛同。
- 歴史的都心地区の将来まちづくりにおいて、歴史都市・京都ならではの空間・景観づくりも重要な要素であるとする人が多いことが伺える。

<来街者 (N=862) >

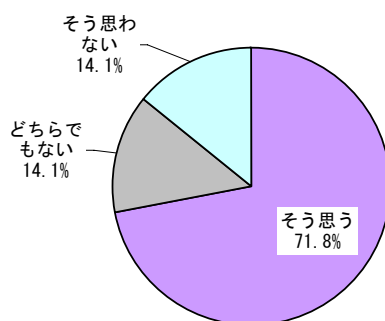


<住民>

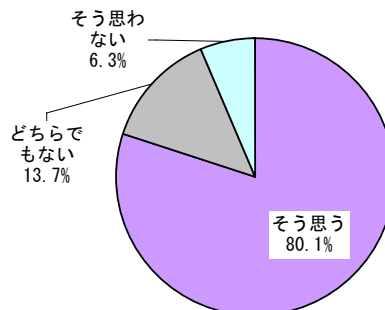
(全体 (N=1,669))



(規制対象内 (N=291))

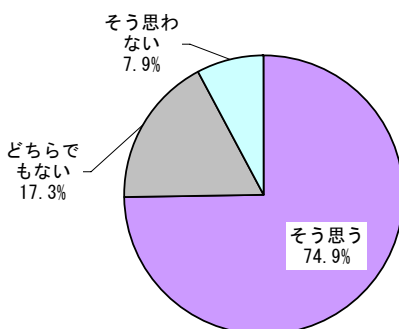


(規制対象外 (N=1,289))

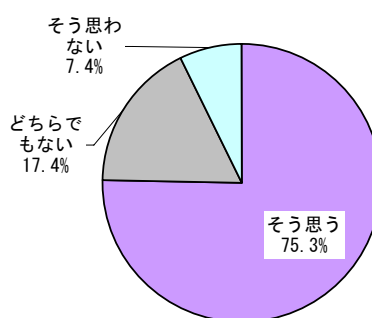


<事業所>

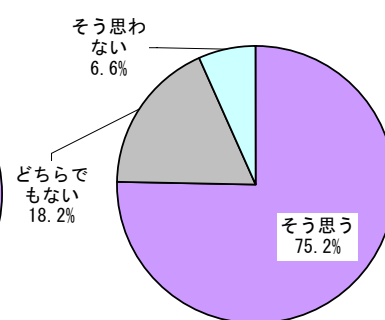
(全体 (N=1,372))



(規制対象内 (N=340))



(規制対象外 (N=875))



資料：来街者ヒアリング、住民アンケート、事業所アンケート調査 ※無回答を除く